

校長室より

「天空高き」



第120号



平成31年4月10日

創立122年目を迎えて 一令和元年一

2019年は、平成から令和に改元される、記念となる年に、高校197名、中学25名、計222名の新入生を迎えました。

新しい元号「令和」は、万葉集、梅の花の歌32首の序文にある

『初春の令月（れいげつ）にして、気淑（よ）く風和（やわら）ぎ、梅は鏡前の粉（こ）を披（ひら）き、蘭（らん）は珮後（はいご）の香を薫（かお）らす』との文言から引用されました。

そして、この「令和」には、人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ、という意味が込められているそうです。

安倍晋三首相は、新元号「令和」に込めた意味について「悠久の歴史と香り高き文化、四季折々の美しい自然、こうした日本の国柄をしっかりと次の時代へと引き継いでいく、厳しい寒さの後に春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、一人一人の日本人が明日への希望とともにそれぞれの花を大きく咲かせることができる、そうした日本でありたいとの願いを込めた」と語っておられます。

本校は4月10日が開校記念日です。校道の坂道前に「楽学」の石碑があります。これこそが高水学園の建学の精神です。これは、論語の第1章「学而時之（これ）を習う、亦（ま）た悦（よろこ）ばしからずや、朋（とも）遠方より来る、亦た楽しからずや」という一文から引用した言葉です。

宮川澳男前理事長は、「楽学とは、学んだことを常に繰り返し繰り返し、習ったり思索してゆくと、それがやがて自分のものとなり、自由に働きを表すようになる。という意味で、実践のない学問では本当のものにならないという意味です。すべては体験してこそものの道理が分かるものです」と述べられておられます。



生きた知識を創造する過程こそが、「主体的な学び」の本質である。

この楽学という建学の精神のもとに生まれた、学園の教育理念は、「徳性の陶冶」であり、言い換えれば、人格の錬成ということになります。今一つは、教育は実践であるとの確信で、具体的に言えば「地域に生きて働く実践者の育成」です。

この建学の精神、教育目標を、今日から心に刻んで、授業、学校行事、生徒会活動や部活動で、そしてあらゆる場で、真摯に学び、明るくひたむきに行動して下さい。

121年間の伝統の上に、さらに新しい伝統を皆さんと一緒に築き上げていきたいと思いをします。



厳しい冬の寒さを
乗り越えて
美しい花を咲かせ
る自然に習い
未来に美しい花を
咲かせるために
今日という日を
大切に



4月の月間目標

先に明るく元気な挨拶

平成31年度
チャレンジ目標

- 1 挨拶 先に明るく元気に
- 2 先を見据えた行動 5分前行動
・登下校のマナーに心掛ける
- 3 整理整頓
- 4 1%を誰かのために

今年のチャレンジ目標は一つ増えて4つ。

- 1 挨拶 先に明るく元気に
- 2 先を見据えた行動 5分前行動
・登下校のマナーに心掛ける
- 3 整理整頓
- 4 1%を誰かのために

私たちを取り巻く社会には、まず家族があり、地域や学校があります。

「人間は社会的動物である」とは古代ギリシャの哲学者アリストテレスの言葉であると言われています。私たちは社会の中で生まれ育ち、社会を維持しながら生きています。常に人と関わり合いながら生活していますので、「あいさつ」は欠かすことのできないコミュニケーションツールです。

1日の始まりは朝からです。「おはようございます」で今日という日を明るく元気にスタートしましょう。

皆さんは朝や夕方、通学や通勤で多くの人たちと電車の中や歩道で行き交います。5分早めに行動し、十分に安全を確保して登下校してください。また、電車内のマナーや自転車の安全走行に気を付けてください。お互いに思い遣りの心を大切にしてください。そして、幼児、小学生や高齢者などが困っておられたり、手助けが必要な時

は、声を掛けるなどして、皆さんの若い力を分けてください。

今年度はチャレンジ目標にもう一つ「整理整頓」を掲げました。

「整理整頓は、他者と共同して仕事（学習）をすることの基本である」と言われます。

まず、整理する。いるものといらないものを分け、いらないものを捨てる。そして整頓。必要なものをいつでも誰でも取り出せるよう、秩序だてて配置する。学校では、授業で使用するプリント類、ロッカー、教室や部室。家庭では、自分が使う机、棚や部屋。身近なところから、整理整頓に心掛けてください。

見方・考え方を変えるー虹の色は七色？ー

皆さんは、国によって虹の色が違うことを知っていましたか？

私は虹の色は七色で、国によって虹の色が違うこと自体考えたことがありませんでした。

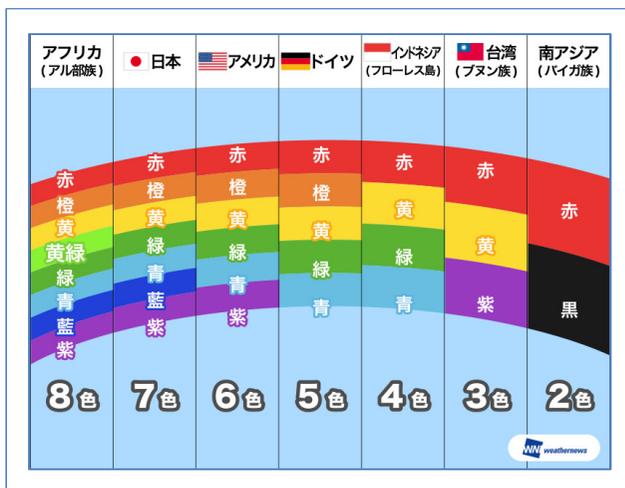
では虹の色は一体何色に見えるのでしょうか。

右の図のように、多い国では8色もあり、一番少ない国だと2色となっています。

では、日本以外の国で出現している虹は、4色や2色なのでしょうか。

そうではありません。国ごとに色の数が大きく異なるのは、実際に見えている虹の色が違うからではありません。例えば、虹を2色としているバイガ族は、明るい色(赤や黄など暖色系)を赤、暗い色(青や紫など寒色系)を黒とザックリ分けているようです。同じ色を見ていても、その色を表現する言葉があるのか、ないのかで虹の色数も変わってくるということです。

私は実際に虹が見えた時、何色に見えるのか、数えます。私は5色に見えるのですが、多くの国々が7色に色分けされています。



虹の色は7色。一般的に赤・橙・黄・緑・青・藍・紫の7色が虹の配色です。

虹色が7色というのは万有引力の法則などで有名な科学者・ニュートンの説がもとになっています。ニュートンの時代では「7」と結び付けることが大事なことと考えられていました。流行だったともいえます。

当時の色彩の基本として赤、黄、緑、青、堇（すみれ）の5色がありましたが、ニュートンは虹の光の帯を見てどうしてもプラス2色加えての7つの色としたかったようです。それで赤と黄の間に果物のオレンジの色から「橙」、青と紫の間に植物染料の色の藍を加えて7色にし、虹の色は7色と決められました。これが日本に伝わり、明治以降の日本の学校教育のなかに取り入れられ現在に至っているそうです。

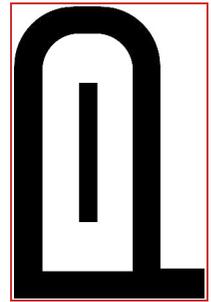
知っていましたか 一 国土地理院の地図記号一

皆さんこの地図記号を知っていましたか？

この記号は「自然災害伝承碑」です。国土地理院が3月、過去に起きた津波、洪水、火山災害、土砂災害などの自然災害などの記録を刻んだ各地の石碑や供養塔の場所が一目で分かるよう、新たに制定しました。

新しい地図記号ができるのは、2006年の「風車」と「老人ホーム」以来13年ぶりだそうです。6月からウェブ版、9月からは紙の地図に反映される見通しです。

自然災害は、いつどこで起こるか予測することができません。常に自然災害への「備え」をしておくことが大事です。特に家族で避難場所や連絡方法は必ず確認しておいてください。



24節気

清明（せいめい）4/5 頃

春先の清らかで生き生きとした様子を表した「清浄明潔」という語を略したもの。万物が若返り、清々しく明るく美しい季節です。この頃は桜の花が咲きほこり、お花見のシーズンでもありますね。南の地方ではつばめが渡って来る頃。雨が多い時季で、暖かくなった後に小雨が降り続いて寒くなったりもします。

穀雨（こくう）4/20 頃

春雨が百穀を潤すことから名づけられたもので、雨で潤った田畑は種まきの好期を迎えます。この時季に、特に雨が多いというわけではありませんが、穀雨以降、降雨量が多くなり始めます。

「清明になると雪が降らなくなり、穀雨になると霜が降りることもなくなる」という言葉があるように、南の地方ではトンボが飛び始め、冬服やストーブとも完全に別れる季節です。変わりやすい春の天気もこの頃から安定し、日差しも強まってきます。昔から、この日を田植えの準備をする目安にしているようです。穀雨が終わる頃に八十八夜を迎えます。

出典「日本の行事・暦」